

防災業務におけるGIS 高度活用人材育成プログラム (1日間プログラム)

| 時間 | 科目 | 概要 |
|---------|--|---|
| 約 20 分 | オリエンテーション | 本プログラムの概要・構成を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの主旨・目的・目標の説明 ・情報共有及び空間的思考の必要性 ・プログラムの構成・内容の説明 等 |
| 約 30 分 | 防災業務における GIS 活用に関する法制度上の課題(災害時援護者情報の個人情報保護等) | 国における GIS に関する取組みを紹介する。特に防災分野における GIS を活用に関連する法制度について紹介する。 |
| 約 40 分 | 防災分野における GIS 活用方策 | 防災分野(特に予防・事前・応急対策)における基本的な業務事項、地理空間情報・GIS の活用方針、活用ケース等について、先進事例等を通じて学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災分野における GIS 活用の基本的考え方 ・組織・体制と情報伝達・共有のあり方 ・防災分野における GIS 活用の実態・課題 ・先進活用事例 等 |
| 約 60 分 | GIS を活用した災害情報の共有・可視化による災害対応業務の高度化に向けた演習 | 岐阜県統合型 GIS を利用して、ソフトウェアの基本操作説明を行った上で、災害予防をテーマとしたケーススタディを行う。特定の地域を対象とし、比較的多く発生する豪雨災害を想定し、実際の地理空間情報を活用した予防・事前・応急対策にかかわる現状把握・空間分析等の演習を行い、各行政部門が連携する際に、地理空間情報プラットフォームの有効性を理解する。 【県域統合型 GIS の概要・基本操作・演習の説明】 |
| 約 210 分 | GIS を活用した災害情報の共有・可視化による災害対応業務の高度化に向けた演習 | 【演習 1: 避難勧告等発令までの情報収集・可視化】 【演習 2: 災害発生時の情報共有・対応状況可視化】 【演習 3: 災害履歴の蓄積・住民への情報提供】 |
| 約 90 分 | グループディスカッション | 現状把握・空間分析を踏まえ、今後、自らの地域等での災害への予防・事前・応急対策として実施すべき事項について企画・立案するためのディスカッションを、演習成果に対する検討を含めて行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ提示 ・グループディスカッション ・発表・講評 |